

Vitamin C ノ滲出性肋膜炎ニ對スル 治驗例ニ就テ

セブランス聯合醫學專門學校内科教室主任 吳漢泳教授)

高 城 仁 星
大 庭 肇

目 次

緒 言

治療方法

治療成績

總 括

考 察

結 論

文 獻

緒 言

Vitamin C ニ對スル業績ハ近年相次イデ發表サレ1928年 Szent Györgi 氏ガ牛副腎ヨリ強力ナル還元物ヲ得テ之ヲ Hexuron ト命名シ1932年 Cox Hirst Karrer Micheel 氏等ハ構造式ヲ決定シ其翌年 Reichsten Oppenhauer Young 氏等ハ Vitacimin C ノ人工合成ニ成功シ Ascorbin 酸ト命名シタ。Vitamin C ハ從來ノ抗壞血病因子ノミナラズ一種ノ觸媒作用ヲ營ミ、細胞ノ賦活機能ヲ促進セシムル作用ノ存スル事ハ一般ニ認ムル所ナリ。Hoffmeister 氏ハ急性傳染病ノ際組織中ノ V. C. 量ノ減少セルヲ認メ P. György 氏ハ各種傳染性疾患ニ V. C. ヲ使用シテ好結果ヲ得タリ。結核ト V. C. トノ關係ニ就イテハ1925年 Schröder 氏ガ結核海猿ニ就イテ V. C. ノ缺乏セルヲ認メ、Mouricand, Couland 氏等ハ V. C. ノ缺乏飼育海猿ニ於テ肺結核ニ對スル抵抗力ノ弱キヲ觀察

シ辻本氏等ハ肺結核患者ノ血清ニ著明ナ V. C. 量ノ減少セルヲ認メタリ。臨牀的ニ結核患者ニ V. C. ヲ應用シタルハ本邦ニ於テハ徳山、岡西、宮本氏等ニシテ徳山氏ハ結核患者ニ V. C. ヲ投與スルト67.5%ニ於テ下熱效果ヲ認メタリ。今滲出性肋膜炎ガ結核ニ其大因ヲ置クコトハ何人モ諒トスル所ニシテ而モ結核ニ V. C. ガ有效ニ働クナラバ本病ニモ何ソ好影響ヲ齎ラスナラント想像シ得ルモノナリ。Vitamin 劑ヲ滲出物肋膜炎ニ應用セシハ V. B. ニシテ吉川、岩崎氏等ハ共ニ V. B. ヲ使用シテ效果ヲ認メタリ。然ルニ Vitamin C ヲ應用セシ臨牀報告ハナキガ如シ。仍テ余等ハ肺結核ヲ合併セザル比較的輕度ナ滲出性肋膜炎患者15例ニ就イテ Vitamin C 劑「ヴイトン」ヲ使用シテ興味アル結果ヲ見タルヲ以テ茲ニ報告セントス。

治療方法

濕性肋膜炎患者15例ニ就イテ治療方法ハ安靜ヲ保チ栄養ヲ補給シ藥物トシテハ消化劑ノ他ニ

利尿劑トシテ醋酸加里液ト「ヂギタリス」ヲ使用シ、下熱劑又ハ吸收劑ハ使用セザリキ。穿刺ハ

呼吸困難高度ナル例ノ他ハ之ヲ避ケ毎日1回「ヴィトン」4錠式(「ヴィトン」1錠中ニハ合成「アラボアスコルビン」酸0.05瓦)ヲ皮下ニ注射シ

其治療經過ヲ觀察スルト共ニ赤血球、白血球、「ヘモグロビン」白血球ノ百分率、赤沈、「ツベルクリン」反應、白糖、體重ヲ逐次測定セリ。

治療成績

第1例 █████ ♀ 34歳 無職 初診 昭和13年5月4日

診断 兩側性滲出性肋膜炎、注射回数19回

生來健全ニシテ著患ヲ患ヒシコトナカリシガ約10日前惡寒ヲ催シ咳嗽ヲ訴ヘタルヲ以テ感冒ト思ヒ「アスピリン」ヲ服用セシガ治ラズ。1週間前ヨリ右側胸痛ヲ訴ヘタリ。其後喀痰ト共ニ食欲減退シ呼吸困難モ加ハリタリト云フ。診スルニ榮養佳良ニシテ兩側胸背部第4肋間以下濁音ヲ呈シ呼吸濁音消失セリ。

入院當日熱37.4°、脈搏106、赤沈1時間60耗、2時間83耗、平均値50.8耗、赤血球320萬、白血球9200、「ヘモグロビン」(ザーリ)65、多核65.5%、淋巴球25.0%、大單核8.5%、「エオジン」嗜好1.5%、ビルケー反應 \pm 、マントー反應 \pm 、體重56.8斤、血糖105mg%。

治療經過

熱ハ注射後第1日目ニ最高37°ニ下熱シ爾後平溫ニナレリ。咳嗽ハ第4日目ニ全ク消失シ第7日目ニハ呼吸困難輕快シ食欲モ恢復セリ。胸痛ハ第13日目ニ消失セリ。入院第20日目ニシテ兩側滲出液ヲ認メズ。濁音モ減少セリ。注射後第19日目入院第20日目に治療退院シタリ。退院後經過良好ニシテ注射第30日目ニハ業務ニ服セリト云フ。

第2例 █████ ♂ 34歳 商業 初診 昭和13年5月31日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数18回

3年前ヨリ感冒ニ罹リ易ク約1ヶ月前ニ左側胸痛ヲ訴ヘリ。咳嗽ヲ催シ附近ノ醫師ヨリ肋膜炎ノ診断ノ基ニ1回穿刺ヲ受ケシガ治ラズ20日前ヨリハ盜汗ヲモ催シタリト云フ。診スルニ榮養ハ左程障碍サレズ胸部左側背下部ニ濁音呼吸音消失セリ。試験穿刺陽性、入院當日熱37.6°、脈搏108、赤血球375萬、白血球9000、「ヘモグロビン」(ザーリ)70、多核61.5%、淋巴球30.5%、大單核5.0%、「エオジン」嗜好2.5%、赤沈ハ1時間12耗、2時間25耗、平均値12.3耗、ビルケー反應 \pm 、マントー反應 \pm 、血糖121mg%、體重58斤。

治療經過

熱ハ注射後第1日目ニ最高37.4°、第5日目以後ハ全ク平溫ニナレリ。胸痛及盜汗ハ第4日目ニ消失シ咳嗽ハ第6日目ヨリ輕快シ第8日目ニハ完全ニ消失セリ。注射後第18日目入院第21日目に治療退院セリ。

第3例 █████ ♂ 22歳 生徒 初診 昭和13年6月3日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数19回

約1ヶ月前ニ感冒ニ罹リシガ1週間後左側胸痛ヲ訴ヘ間モナク呼吸困難ヲ催シ約10日前ヨリハ食欲進マズ盜汗ヲ催セリ。胸部ヲ診スルニ左側背下部濁音呼吸音消失セリ。試験の穿刺陽性。

入院當日熱37.6°、脈搏74、赤血球372萬、白血球8800、「ヘモグロビン」(ザーリ)70、多核64%、淋巴球32%、大單核30%、「エオジン」嗜好1.0%、赤沈1時間13耗、2時間24耗、平均値12.5耗、ビルケー氏反應 \pm 、マントー反應 \pm 、血糖88mg%、體重54斤。

治療經過

入院當日呼吸困難強キヲ以テ800耗ノ肋膜穿刺ヲ施セリ。熱ハ注射後第1日目最高37.1°、第7日目ヨリ平溫ニ復セリ。呼吸困難ハ第2日目ニ消失シ胸痛盜汗ハ第5日目ニ、咳嗽ハ第10日目ニ消失シ注射後第19日目入院、第22日目に退院セリ。

第4例 █████ ♂ 22歳 職工 初診 昭和12年6月30日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数25回

約1ヶ月前ヨリ左側胸痛ヲ訴ヘ咳嗽喀痰ヲ催セリ。5日後ニハ呼吸困難ヲ發シ盜汗食欲不振ヲ覺エタリ。榮養ハ不良ニシテ左側ハ全般ニ互リ濁音。肺尖部ヲ除イテハ呼吸音消失セリ。

入院當日熱38.8°、脈搏115、赤血球340萬、白血球9200、「ヘモグロビン」(ザーリ)60、多核59%、淋巴球33%、大單核65%、「エオジン」嗜好0.5%、赤沈1時間56耗、2時間87耗、平均値72.5耗、ビルケー及マントー反應 \pm 、血糖85mg%、體重61斤。

治療經過

入院當日800耗、入院第9日600耗ノ2回肋膜液ヲ排

1週間前=胸痛、呼吸困難、咳嗽ヲ催シタリ。胸部ヲ診スルニ左側第5肋間以下濁音呼吸消失セリ。

入院當日熱39°、脈搏120、赤血球315萬、白血球10000、「ヘモグロビン」(ザーリ)65、多核64、淋巴球32、大單核3、「エオジン」嗜好0.5、赤沈1時間64耗、2時間90耗、平均値54.5耗、ビルケー及ピマントー反應一、血糖83mg%、體重55.5斤。

治療經過

注射開始第1日目熱最高38.8°、第3日目ヨリ下降シ38.1°、以後漸次下リ第13日目ニハ全ク平温ニ復セリ。咳嗽ハ第2日目ヨリ消失シ、胸痛、呼吸困難ハ第6日目ニ輕快シ、第8日目ニハ全ク快癒セリ、食慾モ第7日目ヨリ恢復セリ。胸部所見ハ15日目ヨリ輕濁音ヲ現シ注射後第20日目入院、22日目ニ治癒退院セリ。

第10例 29歳 無職 初診 昭和13年10月20日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数20回

15日前ニ咳嗽喀痰ヲ催シ1週間前ヨリハ呼吸困難、盜汗ヲ催シタリ。約2年前ニ右側肋膜炎ヲ患ヒタル歴史アリ。胸部ヲ診スルニ左側第7胸椎以下濁音、呼吸音消失セリ。

入院當日熱39°、脈搏120、赤血球數362萬、白血球8200、「ヘモグロビン」(ザーリ)65、多核67.5、淋巴球30、大單核1.5、「エオジン」嗜好1.0、赤沈1時間43耗、2時間78耗、平均値41耗、ビルケー反應十、マントー反應一、血糖97mg%、體重50.2斤。

治療經過

熱ハ注射開始後第1日目著明ニ下熱シ最高37.2°、以後37.4°ニ上リタルコトナク第11日目ニハ全ク平温ニナレリ。呼吸困難ハ第5日目ヨリ減退シ咳嗽ハ第7日目ヨリ消失シ胸痛ハ第10日目ヨリ快癒シ第13日目ニハ全ク消失シ食慾モ第5日目ヨリ恢復セリ。

注射後第20日目入院、第22日目ニ治癒退院セリ。

第11例 29歳 鑛業 初診 昭和13年11月10日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数25回

約10日前ヨリ突然惡寒ト共ニ咳嗽喀痰ヲ催シ約5日前ニ呼吸困難ヲ覺エ盜汗ヲ發シタリ。左側胸部ハ一帯ニ濁音、呼吸音消失セリ。

入院當日熱39.6°、脈搏106、赤血球313萬、白血球10200、「ヘモグロビン」(ザーリ)60、多核70.5、淋巴球25.5、大單核3.0、「エオジン」嗜好0.5、赤沈1時

間43耗、2時間78耗、平均値41耗、ビルケー反應十、マントー反應十、血糖123mg%、體重53.3斤。

治療經過

熱ハ注射後第1日目ヨリ少シク下熱最高38.2°、以後漸次下熱シ第15日目ニ平温ニ復セリ。呼吸困難ハ第2日目ヨリ輕快シ咳嗽ハ第15日目ニ消失シ第10日目ニハ盜汗、食慾不振モ快癒セリ。第15日目ニハ濁音ガ下部ニ限局シ退院時ニハ下部モ輕濁音ヲ呈セリ。注射後第25日目入院第27日目ニ治癒退院セリ。

第12例 19歳 無職 初診 昭和14年3月9日

診断 右側滲出性肋膜炎。注射回数10回。

1週間前ヨリ右側胸痛、咳嗽ヲ以テ發病シ3日前ヨリ呼吸困難ヲ催セリ。

診スルニ右側背部ニ於テ濁音ヲ呈シ呼吸音消失セリ。入院當日最高38.6、脈搏92、赤血球322萬、白血球14800、「ヘモグロビン」(ザーリ)60、多核72.0、淋巴球25.0、大單核4.0、「エオジン」嗜好1.0、赤沈1時間20、2時間45、平均値21.3、ビルケー反應十、マントー反應十、血糖105mg%、體重49.2斤。

治療經過

熱ハ注射後第2日目ニ平温ニ復シ、第5日目ニ一度37.2°ニ上リタルコトアルモ爾後平温ナリ。自覺的症候ヲ見ルニ第3日目ニ呼吸困難消失シ咳嗽モ輕快シ第5日目ニハ咳嗽全ク消失セリ。1週間ヨリ盜汗ヲ催サズ、理學的症候モ注射後1週間ヨリ輕濁音ヲ呈シ呼吸音モ少シ現ハレ、注射後第10日目ニハ明カニ聽取スルニ至レリ。注射後第10日目入院第12日目ニ治癒退院セリ。爾後外來ニ通院シ3回注射ヲ受ケタリシガ退院後2週間ニシテ家事ニ從事セリ。

第13例 37歳 商業 初診 昭和14年3月28日

診断 左側滲出性肋膜炎、注射回数15回。

約2週間前ニ胸痛ト咳嗽、喀痰ヲ以テ發病セリ。胸部ヲ診スルニ左側胸部第5腰椎ノ高サニ於テ濁音、呼吸音消失セリ。入院當日熱ハ38.2°、脈搏88、赤血球323萬、白血球9000、「ヘモグロビン」(ザーリ)65、多核70、淋巴球22.5、大單核4.0、「エオジン」嗜好1.0、赤沈1時間80耗、2時間96耗、平均値64耗、ビルケー反應、マントー反應十、血糖8.9mg%、體重52.2斤。

治療經過

第 2 表 自覺症候消失日數

	胸 痛	盜 汗	呼吸困難	食慾不進	咳 嗽	咯 痰
第 1 例	注射後13日目		7日目	8日目	4日目	8日目
第 2 例	4日目	4日目			8日目	
第 3 例	5日目	5日目	2日目	10日目	10日目	
第 4 例	10日目	15日目	10日目	22日目	14日目	10日目
第 5 例	5日目		4日目	25日目	25日目	2日目
第 6 例	14日目	9日目		10日目	5日目	
第 7 例	10日目	2日目	2日目	10日目	9日目	
第 8 例	15日目			8日目	4日目	
第 9 例	7日目		7日目	8日目	2日目	
第 10 例	13日目	15日目	5日目	5日目	7日目	
第 11 例		10日目	2日目	10日目	14日目	
第 12 例	6日目	7日目	3日目		5日目	
第 13 例	10日目				7日目	5日目
第 14 例	6日目	8日目	5日目	10日目	7日目	
第 15 例	7日目			12日目	10日目	4日目

第 3 表

症 例	入院 當日	注射	注射後 1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
第 1 例	30°4 (106)	37°6 100	37° 95	36°8 101	36°8 93	37° 89	37° 80	36°5 70	36°5 75	36°8 74	37° 73	37° 73	37° 75	36°8 81
第 2 例	37°6 108	37°4 100	37° 84	37°4 89	37°2 84	37°2 90	37° 75	36°8 73	36°8 74	39° 78	36°8 70	36°8 77	37°1 68	36°5 70
第 3 例	37°6 74	37°8 73	37° 70	37°2 74	37°2 70	37°2 75	37°2 72	37°1 70	37° 70	37° 69	37°1 68	37° 68	36°8 65	36°6 68
第 4 例	38°8 115	38°9 114	38°6 110	38°9 116	38°8 114	37°9 104	38° 105	38°1 100	38° 98	38° 98	38° 95	38°2 96	38°4 98	37°8 90
第 5 例	39°6 120	39°4 124	38°6 110	38°4 108	38°3 112	38°4 101	38°5 110	38° 110	38°2 105	38° 100	38°4 103	37°8 98	37°8 96	37°8 100
第 6 例	38°6 100	38° 104	37°6 85	37°4 100	37°3 80	37°2 81	37° 75	37° 73	36°8 70	37° 71	36°8 72	37° 70	36°6 70	36°2 74
第 7 例	39° 115	38°8 118	38°2 100	37°6 110	38° 89	37°8 91	37°5 90	37°2 83	37°1 80	37° 80	37°3 82	37°2 71	37° 80	36°8 70
第 8 例	37°4 108	37°3 100	37°2 98	39°2 90	37° 81	36°8 91	37° 80	37°1 79	36°9 80	37° 81	37° 80	37° 70	37°1 75	36°8 73
第 9 例	39° 120	38°8 110	38°8 115	38°2 100	38°1 105	37°8 93	38° 100	38°2 98	37°5 93	37°2 94	37°2 90	37°4 95	37°1 80	37°2 83
第 10 例	39°2 106	39° 100	39°2 96	37°6 94	37°4 90	37°4 80	37°6 90	37°4 85	37°5 85	37°6 81	37°2 80	37°2 73	37° 75	36°8 72
第 11 例	39°6 104	39°2 101	38°2 88	37°8 90	37°8 84	37°4 78	37°2 82	37° 80	37°6 83	37°4 78	37°4 90	37°6 83	37°3 84	37° 80
第 12 例	37°6 92	37°8 93	37°6 90	37° 80	37° 83	36°8 84	37°2 84	37° 81	36°8 80	36°6 79	36°8 70	36°6 75		
第 13 例	38°2 88	37°6 80	37°1 74	37°4 81	37° 75	37° 83	36°8 80	36°6 78	36°5 70	36°8 73	36°8 68	37° 70	37°1 60	36°5 63
第 14 例	38°4 98	38°2 79	37°1 72	37°4 81	37°4 92	37°2 85	36°8 80	37° 73	36°5 75	36°4 76	36°7 70	37° 71	37°1 70	36°8 68
第 15 例	39°2 121	39° 123	38°4 101	38° 100	38° 108	39°6 98	37°4 91	37°4 84	37° 82	37°2 80	37°3 83	37° 89	37° 81	36°8 80

第 4 表 血液像

		第 1 例	第 2 例	第 3 例	第 4 例	第 5 例	第 6 例	第 7 例	第 8 例	第 9 例	第 10 例	第 11 例	第 12 例	第 13 例	第 14 例	第 15 例
注射前	赤血球	320萬	375萬	372萬	340萬	368萬	312萬	360萬	375萬	315萬	362萬	313萬	322萬	323萬	335萬	321萬
	白血球	9,200	9,000	8,800	9,200	8,200	10,200	10,200	9,000	10,000	8,200	10,200	14,800	9,000	8,800	8,900
	ヘモグロビン(ザーリ)	65	70	70	60	65	60	65	70	65	65	60	60	65	65	63
注射後 1 日	赤血球	300萬	375萬	380萬	300萬	360萬	320萬	353萬	373萬	310萬	368萬	310萬	320萬	300萬	350萬	323萬
	白血球	8,800	9,000	8,500	9,300	8,400	9,600	10,000	9,000	10,900	8,000	9,800	14,000	9,100	9,000	9,100
	ヘモグロビン	66	72	70	63	65	63	65	70	65	72	61	60	60	64	62
5 日	赤血球	350萬	385萬	382萬	320萬	365萬	320萬	360萬	372萬	315萬	365萬	320萬	360萬	323萬	380萬	342萬
	白血球	8,500	8,800	8,000	9,850	8,000	9,000	9,200	8,800	9,800	8,100	9,800	10,000	9,000	8,200	8,800
	ヘモグロビン	73	73	71	65	63	64	63	75	66	73	63	63	62	65	63
10 日	赤血球	400萬	390萬	400萬	360萬	370萬	350萬	370萬	375萬	300萬	385萬	343萬	360萬	360萬	390萬	381萬
	白血球	8,500	8,500	8,100	9,200	8,100	9,200	9,200	9,000	8,800	9,300	9,000	9,800	8,000	8,100	7,800
	ヘモグロビン	70	70	76	65	62	68	70	78	65	75	64	64	65	65	65
15 日	赤血球	412萬	410萬	420萬	360萬	375萬	350萬	372萬	390萬	320萬	391萬	371萬		390萬	420萬	391萬
	白血球	8,100	8,000	8,200	8,500	8,000	8,900	8,100	8,900	7,900	10,600	8,650		7,200	7,800	7,500
	ヘモグロビン	75	75	75	71	68	73	70	76	65	82	70		68	65	68
20 日	赤血球	420萬	400萬	410萬	380萬	375萬			416萬	340萬	380萬	370萬				
	白血球	8,100	8,000	8,100	8,400	7,150			8,600	8,000	8,600	9,000				
	ヘモグロビン	75	73	78	68	65			78	68	82	70				
25 日	赤血球				390萬	390萬						410萬				
	白血球				8,600	7,300						8,000				
	ヘモグロビン				66	66						70				

減少シ第 15 日目ニハ 10,000 以上ガ 7 例、8,000 以上ガ 9 例、7,000 以上ガ 4 例ニシテ殆ド正常値ニ近カリキ。中性多核白血球ハ最高 72%、最低 59%ニシテ、70%以上ガ 3 例ニシテ殆ド残りハ 65%内外ナリ。淋巴球ハ明カニ増加シ 30%以上ガ 8 例、25%以上 30%以内ガ 7 例、治療ト共ニ稍々減少スルモ正常値ニ復スルコトナカリキ。大單核細胞ハ各例ニ依リ變化多ク最高

8.5%、最低 1.5%ナリ。「エオジン」嗜好細胞ハ最高 3.5%、最低 0.5%ニシテ増減ナ示サズ。

赤血球沈降

赤沈ハ 1 時間最高 90 耗、最低 12 耗ニシテ各例平均 1 時間 42 耗、2 時間最高 126 耗、最低 24 耗、各例平均 2 時間 68 耗ニシテ著明ナ下降ヲ示セリ。注射ト共ニ各例著明ニ減少シ注射第 10 日

第 5 表 白血球百分率

		第 1 例	第 2 例	第 3 例	第 4 例	第 5 例	第 6 例	第 7 例	第 8 例	第 9 例	第 10 例	第 11 例	第 12 例	第 13 例	第 14 例	第 15 例
注射前	多核	65.5	61.5	64.0	62.0	59.0	68.5	63.0	62.0	64.0	67.5	70.5	72.0	70.0	69.0	65.0
	淋巴球	25.0	30.5	32.0	30.5	33.0	25.0	30.5	34.0	32.0	30.0	25.5	22.5	25.0	28.0	33.0
	大單核	8.5	5.0	3.0	6.5	4.5	3.0	6.0	2.0	3.0	1.5	3.0	4.0	4.0	1.5	1.5
	エオジン嗜好	1.5	2.5	0.5	1.0	3.0	3.5	1.0	2.0	0.5	1.0	0.5	1.5	1.0	1.5	0.5

注射後 1日	多核	68.5	62.0	65.0	60.0	60.0	70.5	60.5	60.0	66.5	66.0	72.0	72.5	72.0	68.0	67.0
	淋巴球	24.0	30.5	30.5	32.0	33.0	25.0	32.0	35.0	29.0	31.0	22.5	21.5	25.0	28.5	30.5
	大單核	7.5	5.5	4.0	6.5	5.5	3.0	6.5	4.0	4.0	1.0	4.0	4.0	3.5	2.5	2.0
	エオジン嗜好	0	2.0	0.5	1.5	1.0	2.5	1.0	1.0	0.5	2.0	1.5	1.5	0.5	1.0	1.5
5日	多核	70.5	65.0	67.0	63.0	60.0	69.5	64.0	65.5	62.5	67.5	71.5	72.0	73.5	70.5	64.5
	淋巴球	22.5	26.5	28.0	30.0	32.0	26.0	30.0	32.0	31.0	30.5	21.5	21.0	33.0	25.5	32.0
	大單核	6.5	7.0	4.0	5.5	6.5	4.0	5.5	2.0	4.0	1.5	5.5	4.0	3.0	3.0	3.0
	エオジン嗜好	0.5	1.5	1.0	1.5	1.0	0.5	0.5	0.5	2.5	0.5	1.5	2.0	1.5	1.0	0.5
10日	多核	73.0	64.5	71.5	65.0	58.5	71.5	66.5	65.5	63.0	68.5	71.5	73.5	72.5	72.5	66.0
	淋巴球	20.5	25.0	23.0	30.0	34.0	23.0	26.0	29.5	23.0	29.5	22.5	18.5	21.5	23.5	29.0
	大單核	5.5	7.5	4.5	4.5	6.0	2.0	6.0	3.0	8.0	2.0	4.0	5.5	4.5	4.5	4.0
	エオジン嗜好	1.0	1.0	1.0	0.5	1.0	2.5	1.5	1.5	1.0	0	1.0	2.0	1.5	1.5	1.0
15日	多核	72.5	68.0	73.5	67.0	64.5	72.5	65.0	68.5	64.5	69.0	73.0		72.0	71.0	69.0
	淋巴球	19.5	22.0	21.5	25.5	0.0	20.0	24.0	25.0	26.0	28.0	20.5		20.5	23.0	25.0
	大單核	6.5	8.0	4.0	5.0	5.5	3.0	8.5	4.0	8.0	2.0	4.5		6.5	3.5	4.5
	エオジン嗜好	1.5	2.0	1.0	1.0	0.5	4.5	2.5	2.5	1.5	1.0	2.5		1.0	2.5	1.5
20日	多核	72.5	68.5	72.5	65.5	65.5			69.0	64.0	68.5	72.0				
	淋巴球	19.5	22.5	21.5	24.0	29.5			25.5	28.0	28.5	19.5				
	大單核	7.0	7.5	5.5	8.5	4.0			3.0	6.0	2.5	5.5				
	エオジン嗜好	1.0	1.5	0.5	1.5	0.5			0.5	1.5	0.5	2.5				
25日	多核				66.5	64.0							74.5			
	淋巴球				25.0	27.0							18.0			
	大單核				7.0	6.5							5.5			
	エオジン嗜好				1.0	1.5						1.5				

目ニハ35%減少シ、第20日目ニハ入院當日ノ1/3ニ迄減少シ2例ヲ除イテハ殆ド正常値ニ達セリ。

第 6 表 赤血球沈降速度(耗)

		第1例	第2例	第3例	第4例	第5例	第6例	第7例	第8例	第9例	第10例	第11例	第12例	第13例	第14例	第15例
注射前	1時間	60	12	13	56	85	24	85	12	64	13	43	20	80	90	56
	2時間	83	25	24	87	120	45	114	27	90	78	78	45	96	126	95
	平均	50.8	12.3	12.5	49.8	72.5	23.3	71	12.8	54.5	41	41	21.3	64	76.5	50.8
注射後 1日	1時間	62	12	14	58	80	23	81	14	35	29	31	21	73	92	55
	2時間	86	30	25	90	121	46	94	28	75	60	63	39	91	126	91
	平均	52.5	13.5	13.3	51.5	70.3	23	64	14	36.3	29.5	31.3	20.3	59.3	77.5	50.3
5日	1時間	55	11	8	54	72	20	70	13	30	32	19	13	78	65	41
	2時間	78	20	18	85	115	40	91	26	75	66	29	21	93	90	60
	平均	47	11	8.5	48.3	64.8	20	57.8	13	33.8	32.5	19.3	11.8	62.3	54.5	35
10日	1時間	52	10	10	50	50	15	68	10	18	16	23	8	61	55	35
	2時間	69	24	21	80	80	32	81	21	41	40	41	15	82	84	55
	平均	42.3	11	10.3	45	45	15.5	54.3	10.5	19.3	18	21.8	7.8	50.1	48.5	31.3
15日	1時間	23	11	8.5	42	53	18	50	11	20	11	18		43	50	29
	2時間	56	20	20.5	73	86	40	74	20	35	20	36		6	74	50
	平均	25.5	10.5	9.1	39.8	48	19	43.5	10.8	18.8	10.8	18		37.5	43.5	27

20 日	1 時 間	20	8	7	43	42		8	16	8	15	
	2 時 間	56	21	15.3	80	66		20	40	18.5	35	
	平 均	21	9.3	7.3	41.5	37.5		9	18	8.7	16.3	
25 日	1 時 間				32	32					13	
	2 時 間				68	60					23	
	平 均				33	31					12.3	

血糖

目ニハ稍ク下降ヲ示セリ。

入院當日ハ一般ニ高ク平均 102 mg%、第 10 日

第 7 表

	第 1 例	第 2 例	第 3 例	第 4 例	第 5 例	第 6 例	第 7 例	第 8 例	第 9 例	第 10 例	第 11 例	第 12 例	第 13 例	第 14 例	第 15 例
注 射 前	105	121	88	85	121	105	102	108	83	97	123	15	89	115	83
注 射 後 1 日															
5 日															
10 日	100	92	90	101	101	88		81	86	90	105	84			
15 日						80	93								
20 日	90	91	89	100	89			92	84	84					
25 日															

「ツベルクリン」反應

陽性。マントー反應ハ 2 例ヲ除キ陽性、退院時ニ於テハビルケー氏反應 4 倍ニ於テハ 1 例ヲ除ケバ増減ナク 25 倍ハ陰性トナリタルモノ 9 例、マントー氏反應ノ陰性トナリタルモノ 3 例。

ビルケー氏反應、マントー氏反應ヲ入院第 2 日目及ビ退院時測定セシニ入院第 2 日目ニ於テビルケー反應 4 倍ハ全部陽性、25 倍ハ 9 例ニ於テ

第 8 表 「ツベルクリン」反應

(卍……直徑 3.0 種以上、++……2.0 種以上、+……1.0 種以上、—……0.5 種以下)

		第 1 例	第 2 例	第 3 例	第 4 例	第 5 例	第 6 例	第 7 例	第 8 例	第 9 例	第 10 例	第 11 例	第 12 例	第 13 例	第 14 例	第 15 例
入 院 時	ビルケー反應	4×	++	++	+	++	++	+	++	++	+	+	++	++	++	++
		25×	+	+	—	+	—	—	+	—	—	—	+	++	+	++
	マントー反應 (1000×)		++	+	+	++	++	+	卍	+	—	—	卍	++	+	卍
退 院 時	ビルケー反應	4×	+	+	+	++	++	+	++	++	—	+	+	++	+	+
		25×	—	—	—	+	—	—	—	+	—	—	—	+	+	+
	マントー反應 (1000×)		+	+	+	++	+	—	++	+	—	—	+	++	+	++

體 重

セリ。

各例ヲ通ジテ注射後第 15 日目 ヨリ明カニ上昇

第 9 表 體 重(妊)

	第 1 例	第 2 例	第 3 例	第 4 例	第 5 例	第 6 例	第 7 例	第 8 例	第 9 例	第 10 例	第 11 例	第 12 例	第 13 例	第 14 例	第 15 例
注 射 前	56.8	58	54	61	45	50	59.2	48.2	55.5	50.2	53.3	49.2	52.2	45.3	49.2

注射後 1 日	56.2	59.2	54	60.8	44.8	50	60	49	55	50.6	54.1	48.3	53.0	45.4	48.8
5 日	56.5	60	55.5	60	45.2	50.6	59.8	50.5	55.3	51.2	54.3	49.8	54.5	46.6	50.3
10 日	57.0	60.5	55.6	62.2	46.0	50.4	60	41	56.2	51.8	55.3	51.2	54.8	46.8	50.9
15 日	58.2	59.2	56.2	62	46.2	52.2	60.2	49.2	56	52.2	54.9		54.9	46.9	51.2
20 日	58.3	59	60.3	61	49.3		49.5	56.5	52.5	55.2					
25 日				64.2	47.1					55.3					
30 日															

考 按

肋膜炎ノ治療法ハ從來多様ニシテ特ニ穿刺ノ良否ニ關シテハ各其ノ見解ヲ異ニシ一般ニ有熱時ニハ成ルベク之ヲ避ケル方針ヲ取レルモノ、如シ。又藥物トシテハ解熱劑、吸收劑、利尿劑等多クノ藥物ヲ使用シ來レリ。然ルニ昭和12年飯塚、小澤兩氏等ハ肋膜炎ノ治療ニ安靜ト榮養ヲ保チ藥物トシテハ「ザルフ」ノ如キ食欲ヲ害スルモノハ之ヲ避ケ解熱劑モ特別ノ場合ヲ除イテハ與ヘズ穿刺ハ呼吸困難ノ強度ナルモノ以外ハ施サル方針ヲ取ツテ好結果ヲ齎ラセリ。余ハ Vitamin C ノ結核ニ有效ナル點ニ鑑ミ濕性肋膜炎治療ニ飯塚氏等ノ治療方針ニ基キ安靜ト榮養ヲ保持シ吸收劑又ハ解熱劑ハ一切用ヒズ穿刺モ第3、第4、第5例等ノ最初ヨリ吸收困難ノ高度ナルモノ、他ハ施サズ、Vitamin C 劑ノ「ヴィトン」使用セルモノニシテ以上ノ治療成績ヲ以テ個人ノ體質發病迄ノ日數等種々ナル要約ヲ考慮セバ直チニ「ヴィトン」ノ絶對的價値ヲ云々スル能ハザルモ自覺症狀ノ輕快、下熱作用及ビ吸收作用ヲ促進セシメタルガ如キ成績ヲ得タルハ敢ヘテ疑フベカラザル事實ナリト信ズ。肋膜炎ノ治療ノ限界ヲ定ムルニモ區々ニシテ熱及ビ自覺症狀ノ全ク取レタルモノニ於テモ他覺的ニハ所見ノ殘レル場合多ク之ガ完全ニ消失スルニハ相當日數ヲ要スルモノナルヲ以テ余ハ自覺的の症候及ビ熱ノ全ク取レタルモノニ對シテモ他覺的ニ滲出液ノ未ダ殘レルモノニハ之ガ取レル迄ノ間又滲出液ガ吸收サレテモ熱又ハ自覺症候ガ殘レルモノハ之ガ完全ニ消失スル迄ノ間ヲ治療日數ト定メタリ。

下熱ノ早朝ニ起リ注射後第1日目ニ平熱ニ復シタル例3例アリテ9例ニ於テハ2週間以內ニ平熱ニ復シタリ。最モ遅キ3例ニ於テモ25日内外ナリ。肋膜炎ノ下熱期間ハ個人ニ依リ又ハ病熱ノ輕重ニ依リテモ差異ハアルモ從來ノ下熱日數ヨリモ明カニ短縮セラレタリ。第1日目ニ平温ニ歸シタル3例及ビ第10例ノ如ク注射翌日ニ39°ヨリ37.2°ニ下熱シタル成績ハ明カニ「ヴィトン」ノ下熱效果ノ著明ナルヲ究知スルニ足ラン。赤血球數ハ肋膜炎ニ於テ稍々減少スルコトハ諸家ノ認ムル所ニシテ小西氏ハ肋膜炎患者ノ20%ニ於テ貧血ガ現レルト云ヒ榊田氏等モ同様赤血球ノ減少ヲ認メタリ。余等ノ成績ニ於テモ平均340萬ニシテ少シク減少シ注射後第10日目ヨリ上昇シ第15日目ニハ正常ニ復セリ。「ヘモグロビン」ハ稍々減少シ注射ト共ニ増加セリ。白血球ハ肋膜炎ニ於テハ増減ナキモノ、如キモ急性ニ發生シタルモノハ増多性アリト云フハ諸家ノ一致セル成績ニシテ余等ノ例ニ於テハ各例ヲ通ジ増加平均9,600ニシテ注射後第5日目ヨリ減少シ第15日目ニハ殆ンド正常ニ復セリ。中性多核白血球ハ小西、榊田、林氏等ハ減少シ尙淋巴球ハ却ツテ増加スルト云フ。中性多核白血球ノ増加セルモノハ豫後不良ナリト云ヘリ。余等ノ例ニ於テハ中性多核白血球ト一般ニ減少シ、淋巴球ハ増加セリ。多核白血球及ビ淋巴球ハ注射ト共ニ増減スルモ淋巴球ハ治療後モ正常値ヨリハ稍々増加セリ。肋膜炎ニ於テ赤血球沈降速度ノ促進スルコトハ

杉田、丸山、浦部氏以下諸氏ノ等シク觀察セル所ニシテ丸山氏ハ患例50%ニ於テ50以上ナリト云ヒ、浦部氏ハ12—15ナリト云ヘリ。余等ノ例ニ於テモ最低12耗、最高95耗ナリキ。Vitamin Cノ赤沈抑制作用ハ今日等シク認ムル所ニシテ、余等ノ例ニ於テモ治療ト共ニ著明ニ減少シ「ヴイトン」ヲ使ハザル例ニ比スレバ早期ニヨリ著明ニ抑制セラレタリ。又丸山氏ノ肋膜炎治療經過中ノ赤沈減少程度ニ比スレバ其ノ差明カナルヲ知ルベシ。

結 論

余等ハ滲出性肋膜炎患者15例ニ就イテ安靜ト榮養ヲ保チ藥劑トシテハ吸收劑又ハ解熱劑等ヲ使用セズシテ穿刺ハ呼吸困難ノ高度ナル3例以外ハ施サズシテVitamin C劑「ヴイトン」ヲ1日4耗式注射シテ其治療經過ヲ見ルニ

- (1) 治療日數ハ平均20日
- (2) 胸痛ノ注射後早キハ第5日目遅キハ第15日目(平均8.6日)ニ消失セリ。
- (3) 盜汗ハ第2日目乃至第15日目(平均8.3日)ニ消失セリ。
- (4) 呼吸困難ハ第2日目乃至第10日目(平均4.7日)ニ消失セリ。
- (5) 食慾不振ハ第5日目乃至第25日目(9.8日)ニ恢復セリ。
- (6) 咳嗽ハ第2日目乃至第10日目(平均6日)ニ消失セリ。

文 獻

- 1) Szeut, Gyorgi, Natur (Loud) 129, S. 782 1928.
- 2) Szeut, Gyorgi und mit Arb. Biochem. J. 27 S. 279.
- 3) W. Stepp u. P. Gyorgi, Avitaminosen S. 521 Berlin (727).
- 4) Schroder, 3 bl f. Gesamm. Tbc. ferschung Bd. 25: 188.
- 5) Hasserbauch, Deutsches Tbc. Blott 186(1936).
- 6) 吉川新次, 特發性肋膜炎ニ對スルV. B. 劑ノ應用. 關西醫事. 174號. 8頁. 昭和9年.
- 7) 宮本傳三郎, 結核ニ對スルVitamin Cノ應用. 大阪醫事新誌. vol. 8. 1號. 107. 昭和12年11月.
- 8) 藤井, 結核ニ對スルVitamin C療法.

血糖ハ注射後第10日目ヨリ下降セリ。體重ハ各例ヲ通ジ注射後第15日目ヨリハ明カニ上昇セリ。

自覺症狀ハ從來ヨリモ早期ニ消失シ治療日數ハ早キハ12日遅クトモ30日目ニハ治癒シ治療日數平均: 0日ナリ。小西氏ノ統計ニ依レバ總例406例中4週以內ガ58人、8週以內ガ119例ニシテ最モ多シトセリ。此ノ統計ヨリハ遙カニ短縮セリ。

- (7) 熱ハ3例ニ於テハ注射翌日ヨリ平熱ニ復シ5例ニ於テ1週間日、5例ニ於テ2週間日ニ平熱ニ復シ2例ニ於テ25日内外ニ平温ニ復セリ。
 - (8) 赤血球「ヘモグロビン」ハ治療ト共ニ増加シ淋巴球ハ發病當時ハ増加スルモ漸次減少ス。中性多核白血球ハ却ヘツテ減少シ治療ト共ニ稍々増加セリ。
 - (9) 赤血球沈降速度ハ著明ニ抑制サレ第10日目ニハ注射前ノ35%第20日目ニハ70%内外ニ迄抑制サル。
 - (10) 體重ハ治療ト共ニ増加ス。
 - (11) 血糖ハ入院當時ハ稍々高キモ治療ト共ニ正常値ニ復セリ。
- (稿ヲ終ルニ當リ終始御懇篤ナル御指導竝ニ御校閲ヲ賜ハリシ恩師吳教授ニ滿腔ノ謝意ヲ捧グ)。

- 結核. 15卷. 4號. 346頁. 昭和12年4月.
- 9) 今村荒男, Vitamin Cト肺結核. 實驗治療. 1卷. 185號. 397頁. 昭和12年. 11月.
- 10) 關西順二郎, 結核トVitamin C. 臨牀内科. 4卷. 3號. 304頁. 昭和13年4月.
- 11) 徳山廉, 結核熱ニ對スルVitamin Cノ下熱效果. 治療學雜誌. 7卷. 8號. 昭和12年8月.
- 12) 川田柄別, 「ヴイタミン」ノ臨牀ノ應用. 東京醫事新誌. 3079號. 2234頁. 昭和13年8月.
- 13) 小西善造, 肋膜炎ノ統計的觀察特ニ濕性ナルモノニ於ケル穿刺ノ效果ニ就イテ. 結核. 15卷下. 昭和12.
- 14) 保坂直人,

肋膜炎ノ運命ニ就イテ. 日本內科學會雜誌. 18 卷. 249. 15) 大野章三, 肋膜炎ノ統計的觀察. 福岡醫學會雜誌. 9 卷. 401 頁. 16) 岡村三郎, 肋膜炎ノ統計的觀察. 北越醫學會雜誌. 39 卷. 135 頁. 17) 大沼清, 肋膜炎ノ統計的觀察. 大阪醫事新誌. 4 卷. 1077. 240(昭和 8 年). 18) 岩崎秀之, 肋膜炎ノ統計的觀察及 V. B. ノ應用ニ就イテ. 東京醫學會雜誌. 48 卷上. 1 號. 103. 昭和 9 年. 19) Bruns O. Pleuraerkrankungen, Neue Deutsch Klinik 9. 17. 1932. 20) Silber Schmidt p. zur prognose und tuberkulosen Aetiologie der Serosen Pleuritis 3 Kli. d. Tub. 60, 128. 1924. 21) 樹田義雄, 肋膜炎ニ於ケル血液像特ニ核推移ニ就イテ. 金澤十全醫. 22) 吳內科學. 23) 大谷

誠, 內科學的疾患ニ於ケル赤血球ノ沈降反應. 日本醫學. 第 15 卷. 5 號. 6 號. 24) 永井秀太, 肺結核患者ノ血液像ニ就イテ. 日新醫學. 第 11 卷. 25) 岩橋利夫, 胸膜炎(普通型)ノ血液像. 軍醫團雜誌. 114. 26) 丸山啓吾, 肋膜炎ト赤血球沈降反應. 內外治療. 11 年. 3 號. 昭和 11 年 3 月. 27) 齋藤, 關口, 實驗的 Vitamin C 缺乏症ノ血液變化. 東北醫學會雜誌. 15 卷. 1 號. 昭和 7 年. 28) 浦部, 胸膜炎患者ト赤沈. 軍醫團雜誌. 270 號. 1560 (昭和 11 年 11 月). 29) 光田, 長野, 山中, 肋膜炎統計的觀察. 大阪醫事新誌. 6 卷. 72 號. 1514 (昭和 10 年 12 月). 30) 杉田, 肋膜炎ニ於ケル赤血球沈降反應ニ就イテ. 海軍醫學雜誌. 24 卷. 4 號.

- 11) Im Schlachtsfeld ist es unmöglich eine genügende Bettruhe unterzuhalten, daher die Pleuralpunktion ist nicht immer eine geeignete Therapie, sondern muss man die Patienten möglichst früh nach ihrem Vaterlande schicken.
Die Pleuralschwartenbildung bei den Punktionsfällen im Schlachtsfeld war bedeutender als bei den nicht punktierten.
- 12) Die Fälle mit Komplikationen betragen 35,3%, davon waren 42,5%, daher 15% der sämtlichen Kranken, von tuberkulöser Natur, 4,3% Malaria, 4,0% Beriberi und 3,7% Kriegsernährungsstörung.
- 13) Der Ausgang von den Pleuritikern; geheilte und gebesserte 82,7%, gestorbene nur 1,3% und vornehmlich an tuberkulösen Komplikationen.
- 14) In den Familien und den eigenen Geschichten findet man nur 8,7% von den tuberkulösen Belastungen.
- 15) Die Mantoux'sche Reaktion:
Bei in das Heer eingetretener Zeit erwies sich bei 30,3% aller geprüften Fällen positiv, und bei an Pleuritis erkrankter 89,0% und bei Entlassungszeit bis zum 97,2% sich erhöht.
- 16) Röntgenbild der Brust bewies sich nur bei 14,3% die tuberkulösen Veränderungen.
- 17) Die Fernprognose nach ca. 2 Jahren zeigte sich Erleichterung 68,1%, Sterblichkeit 5,4%.
Bei allen Fällen der verschlimmerten und gestorbenen fand man tuberkulösen Komplikationen.

Aus den oben geschilderten Ergebnisse kann man betonen, dass die sog. Kriegspleuritis, gleichartig wie bei Pleuritis idiopathica, ausschliesslich in dem Frühstadium der tuberkulösen Infektion sei und empfehlen Verff. als deren Abwehr die Ausführung von z. B. BCG-Schutzimpfung gegen der Mantoux-negativen Soldaten besonders im Kriegsfeld.
(Autoreferat.)

The Effect of Vitamin C Administration in the Cases of Pleurisy with Effusion.

By

Jinsei Takagi and Hajime Ohba.

(From Department of Medicine, Severance Union Medical College, Keijo, Chosen.
Director: Prof. Dr. Kangei Kure.)

The authors observed the effect of vitamin C administration in 15 patients of pleurisy with effusion giving 4 cc. of viton (1-ascorbic acid 0.2 g) daily, especially, its influence on each symptom and general condition.

Resultats: —

1. The duration of clinical symptoms, such as fever, chest pain, dyspnoea, cough, night sweats, anorexia should be considered shortened and it takes nearly 20 days for improving the general condition.

The duration of the following symptoms were: fever—1-2 weeks at most, chest pain—about 9 days, dyspnoea—about 5 days, cough,—about 6 days, night sweats—about 8 days, anorexia—about 10 days, on the average.

2. The sedimentation velocity of red blood cells are remarkably retrained and on the 20th day of Vitamin C treatment, it dropped nearly to one-third, comparing the value measured before the treatment.

3. The blood picture showed the increase of haemoglobin and polymorphonuclear leucocytes, decrease of lymphocytes, in proportion to the period of succeeding treatment.

4. The amount of blood sugar came down to normal level. It showed hyperglycaemia at first.

5. Body weights were generally increased by this treatment. (*Author's abstract.*)